

第1回企画等専門調査会(平成23年11月21日)資料
 「<平成23年度>食品安全委員会が自ら行う食品健康影響評価の案件候補について(案)」抜粋

評価課題／危害要因	危害要因に関する概要等	国内外における評価状況、管理状況等
グルコサミン	<p>・独立行政法人国立健康・栄養研究所:「健康食品」の安全性・有効性情報 http://hfnet.nih.go.jp/contents/detail24lite.html</p> <p>グルコサミンは糖の一種で、グルコースにアミノ基(-NH₂)が付いた代表的なアミノ糖であり、動物の皮膚や軟骨、甲殻類の殻に含まれている。</p> <p>俗に「関節の動きをなめらかにする」、「関節の痛みを改善する」などといわれ、ヒトでの有効性については、硫酸グルコサミンの摂取が骨関節炎におそらく有効と思われる。</p> <p>安全性については、硫酸グルコサミンは適切に摂取すればおそらく安全と思われるっており、塩酸グルコサミンは短期間、適切に摂取する場合は安全性が示唆されている。</p> <p>若い人が長年にわたって摂取すると、自然な軟骨再生力が低下する可能性がある。</p> <p>またグルコサミン摂取による血糖値、血圧、血中コレステロール値の上昇などが懸念されているので、糖尿病、高脂血症(脂質異常症)、高血圧のリスクのある人は注意して利用する必要がある。</p> <p>妊娠中・授乳中の安全性についてはデータが十分でないことから使用を避けるべきである。</p>	<p>〈国内〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食品安全委員会による評価状況:なし。自ら評価候補として検討(H22(2010))。 ・厚生労働省:「健康食品」の安全性・有効性データベースについて平成16(2004)年7月14日食安新発第0714001号 <p>「健康食品」については、国民の健康に対する関心が高まるとともに、健康と食に関する情報が氾濫するようになり、中には、過剰摂取や過度の痩身行為などの偏った食生活を導く不適正な情報あるいは非科学的な情報も増え、国民の混乱を招いているとの指摘が少なくありません。</p> <p>こうした状況を改善するため、本年6月9日にまとめられた「健康食品」に係る今後の制度のあり方に関する検討会」の提言においても、普及啓発として「健康食品」の有効性・安全性について中立的な情報提供を行うデータベース等を活用するべきであるとされています。</p> <p>今般、その「健康食品」の安全性・有効性データベースが独立行政法人国立健康・栄養研究所のホームページに開設されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・独立行政法人国立健康・栄養研究所:ホームページ「健康食品」の安全性・有効性情報 http://hfnet.nih.go.jp/contents/detail24lite.html <p>〈海外〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ドイツ連邦リスク評価研究所(BfR) サプリメントへのグルコサミンの使用の健康リスクを評価し、以下の3つのリスク群を特定した。 a)糖尿病又はグルコース不耐性の者 b)心血管疾患のリスクのある者 c)クマリン血液凝固阻止剤を服用している者 BfRは、クマリン血液凝固阻止剤を服用している消費者に対し、分離グルコサミン含量390~790mg/一日服用量のサプリメントを摂取しないよう助言する。(2010年2月4日) http://www.bfr.bund.de/cm/208/glucosaminhaltige_nahrungsergaenzungsmittel.pdf ・英国 新規食品・加工諮問委員会(ACNFP:Advisory Committee on Novel Foods and Processes) 欧州では食品サプリメントとしての現行のグルコサミン使用については「糖尿病患者は医師の指導の下にのみ使用すること、18才未満の人は使用しないこと」との警告が必要である(英国では任意)(2009年5月15日) http://www.food.gov.uk/multimedia/pdfs/acnfp956gluc